

都道府県名	青森
-------	----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	青森市立筒井中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	7	7		22	39
生徒数	278	245	262		785	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人が自ら考え、主体的に活動するための学習指導法の研究 ～個に応じた指導方法・確かな学力の定着を目指して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学（全学年） 生徒の理解度に差が出やすく、本校の実態として学力の向上がさらに求められるため。</li> <li>・英語（全学年） 平成14年度からT・Tを実施しており、研究実績があるため。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒一人一人が自ら考え、主体的に活動するための学習指導法の研究 ～個に応じた指導方法・確かな学力の定着を目指して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 個に応じた指導を充実させることによって、自ら考え、主体的に活動できる生徒が育つことを習熟度によるクラス編成やT・T等による指導方法の改善を通して明らかにする。</p>
--------	--

## 研究の内容・方法

### ア) 習熟度に応じたクラス編成

1年生数学を習熟度に応じて、クラス編成する。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組
基礎クラス	合同		合同		合同		合同	
応用クラス	合同		合同		合同		合同	

### イ) T・Tの導入

- ・全学年の英語・数学でT・Tを行う。
- ・T・Tの実施時間は次の通りである。(すべて週3時間の内数)

	1年	2年	3年
英語	1	1	1
数学	3	2	2

\* 1年数学では、習熟度別クラスを実施したうえで、次のように、T・Tを組み入れる。

第1期 (10週) = 基礎クラスにT・T。(3人体制)

第2期 (10週) = 基礎・応用クラスにT・T。(4人体制)

第3期 (5週) = 基礎・応用クラスにT・T。(4人体制)

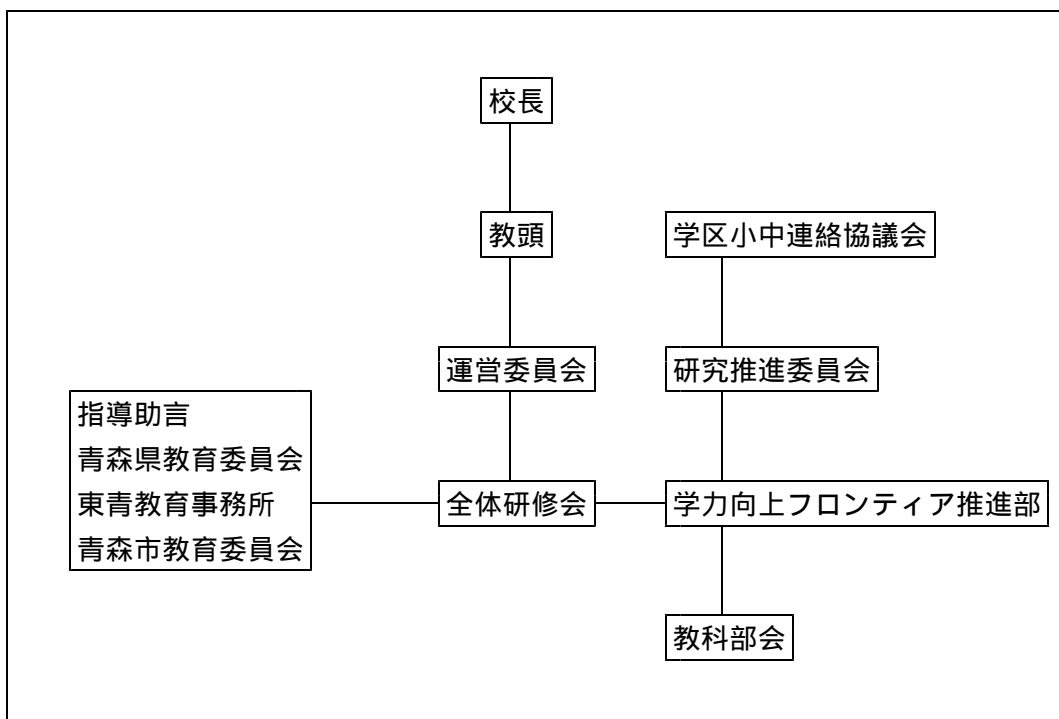
第4期 (10週) = 基礎・応用クラスにT・T。(4人体制)

### ウ) 個に応じた指導のための教材の開発

- ・クラス編成のための評価テスト  
1年数学科では、単元ごとにクラス編成のための評価テストを作成実施し、より効果的なクラス編成のための資料とする。
- ・自己表現ワークシート  
英語科では、学期または単元の終了時に自己表現ワークシートを授業中の活動に取り入れ、表現力の向上に努める。

平成 16 年 度	<p>テーマ 生徒一人一人が自ら考え、主体的に活動するための学習指導法の研究 ～個に応じた指導方法・確かな学力の定着を目指して～</p> <p>研究の見通し 個に応じた指導を充実させることによって、自ら考え、主体的に活動できる生徒が育つことを習熟度によるクラス編成やT・T等による指導方法の改善を通して明らかにする。</p> <p>研究の内容・方法 ア) 習熟度に応じたクラス編成  イ) T・Tの導入  ウ) 個に応じた指導のための教材の開発 *平成15年度の研究内容・方法を踏襲するが、教員配置を考慮した上で、教科や単元の特性に応じた指導過程の研究に重点を置いて取り組む。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 数学科

- ・ 単元ごとに実施している評価テストの結果は次の通りである。

回数	単元	平均点	再テスト対象人数
1	正負の数	68.3	85
2	文字と式	58.5	138
3	方程式	65.0	105
4	比例と反比例	62.9	97

- ・ 評価テスト終了後に、上位と下位にクラス分けを行っており、毎回各クラスで5～10人ほどが入れ替わっている。また、常時再テストや学習会を実施し、基礎・基本の定着に努めている。
- ・ 学習意欲についてのアンケートからは、習熟度クラスについては7割、T・Tについては9割の生徒が学習しやすいとの回答を出している。
- ・ 放課後の学習会を日常的に実施することによって、特に下位クラスの中でも学力が低い生徒が授業に意欲的に取り組む姿勢が見られてきた。
- ・ 第2期からは4人で2クラスのT・Tが組めたことにより、個別指導がより一層効果的に行われた。
- ・ 担当教師同士の教材に関する話し合いの機会が増え、教材研究が深まってきている。
- ・ 自己評価カードを授業後点検し、生徒個々の理解度や満足度を確認することを必ず行い、次の授業での個別指導に役立てている

#### 英語科

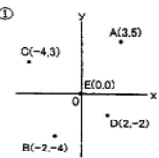
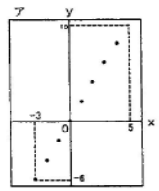
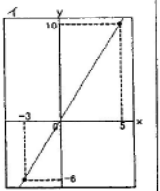
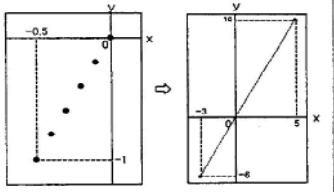
- ・ T・Tの実施により生徒の意欲の向上が多くの場面で観察された。特に、新教材の導入場面では、現実的で生徒にとって身近で興味がわく話題を対話形式で提示することで、学習意欲の向上を促すことができた。
- ・ 教材研究についての教師間の話し合いの場が増えた。
- ・ ペア活動中、あるいは活動後の課題到達についてのチェックや自己表現のための書く活動における個別指導がこまめにできた。

#### 校内研修体制

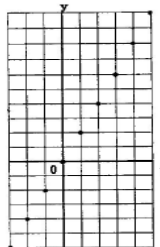
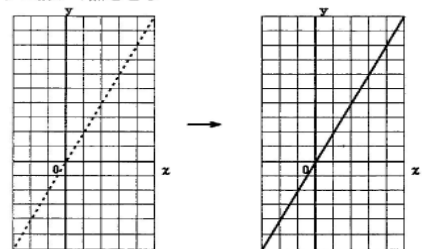
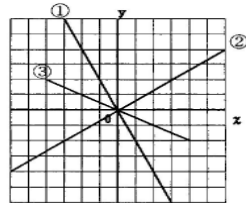
- ・ 本事業を今年度からスタートするに当たり、各教科における基礎・基本の確認作業が行われ、それに伴い、年間指導計画の見直しが図られた。
- ・ 全校一斉の漢字等のコンテストを実施し、学習意欲の喚起を促した。

\* 以下は、数学科と英語科の今年度実施した指導案からの抜粋である。

・下位クラス

段階	T 1 の働きかけ	T 2 の働きかけ	予想される生徒の活動・反応	形態	留意点と評価																																																												
導入	1 復習をする。 ① 座標平面に次の点を示しなさい。 A (3, 5) B (-2, -4) C (-4, 3) D (2, -2) E (0, 0) ② 今から5秒後を+5秒と表すと3秒前はどうか表されますか。 ③ 1秒間に2m進むとき5秒後には何m進みますか。			個人	・プリント準備 ・本時に関わる復習問題として、取り扱う。 ―― 評価1―― 既習事項が身につけているか。 知識・理解																																																												
展開	2 問題場面を提示する。 ビルの中を1秒間に2mずつ動くエレベーターがあります。エレベーターは地下6mから地上10mの高さにある3階まで上がります。今地下6mから上がったエレベーターがちょうど地上0mの地点を通過しました。この時から経過した時間をx秒、x秒後のエレベーターの高さをy mとするとき、このエレベーターが動く様子を式で表してみよう。 3 学習課題を提示する。 エレベーターの動く様子 $y = 2x$ をグラフで表してみよう。 4 見通しをもたせる。 式から表をつくらせ、表からグラフを書くことを指示する。 5 検証させる。 地上0mのときの時間を発表させる。 地上0mの所の表とグラフ上の点を発表させる。 残りの表とグラフを完成させる。 机間指導をし、つまづいているグループには支援する。	・机間指導をし、つまづいている生徒には支援する。 ・指名し、前に出して発表させる。 ・エレベーターの速さについてふれて興味・関心を持たせる。 ・生徒の発表を支援する。	①  ② -3秒 ③ $2 \times 5 = 10$ 10m (式) $y = 2x$	個人 一斉	・プリント準備 ・グラフ用紙準備 ・動く様子を見せる教具を準備 ・復習問題③での距離が高さと同じであることを確認する。 ・比例の式で比例定数が2であることを確認する。																																																												
閉	6 まとめさせる。 今日の勉強でわかったことをまとめよう。 7 適応問題を提示する。 ① $y = x$ ② $y = 1/2x$ のグラフを書きなさい。	・指名し、前に出して発表させる。 ・A, 1の2通りのグラフが発表されるように指名する。 ・T 1とともに生徒の取り組みの様子をみて生徒の発表を支援する。	地上0mのときは0秒 <table border="1" data-bbox="758 952 1061 1097"> <tr><td>x(時間)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>y(高さ)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> グラフ上の(0, 0)に点をとる。 表 <table border="1" data-bbox="758 1041 1061 1097"> <tr><td>x(時間)</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>y(高さ)</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td></tr> </table> グラフ ア  イ  点をつなげると点と点の間でエレベーターが消えたことになるから。 表のxの値をもっと細かくとってグラフに点をとっていきと直線になっていくから。など 表 <table border="1" data-bbox="758 1433 1061 1489"> <tr><td>x</td><td>...</td><td>-0.5</td><td>-0.4</td><td>-0.3</td><td>-0.2</td><td>-0.1</td><td>0</td><td>0</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>...</td><td>-1</td><td>-0.8</td><td>-0.6</td><td>-0.4</td><td>-0.2</td><td>0</td><td>0</td><td>...</td></tr> </table> グラフ 	x(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	y(高さ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x(時間)	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	y(高さ)	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	10	x	...	-0.5	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	0	0	...	y	...	-1	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	0	...	個人 グループ 一斉	―― 評価2―― 比例のグラフを書くことができたか。 表現・処理 ・プリントやグラフ用紙の記入状況 ※取り組みの状況を見て、表やグラフの一部を確認する。 ・グループ全員がグラフまで書き終えたらグループをとかせる。 ・表からもxの値が2倍3倍...になるとyの値も2倍、3倍...となっていて比例であることを確認する。 (負の方についても) ・表やグラフでのxとyとの変域を確認する。 ・xの値が負の小数のときyの値を確認する。 ・xの値を細かくとってグラフ用紙に点をとっていきと、直線になっていくことを確認する。
x(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																								
y(高さ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																								
x(時間)	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5																																																								
y(高さ)	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	10																																																								
x	...	-0.5	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	0	0	...																																																								
y	...	-1	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	0	...																																																								
整理			・比例のグラフは原点を通る直線である。 ・比例のグラフをかき順序 ①式から表をつくる ②表から座標平面に点をとる ③とった点を結ぶ	個人 グループ	―― 評価3―― 比例のグラフの書き方の手順をいえるか。 表現・処理 ・発表や反応の状況 ※ $y = 2x$ のグラフからグラフを書く手順を確認させる。 ・プリント、グラフ用紙を準備する。 ・比例の式であることと比例定数を確認する。 ・変域が書かれていない場合は表やグラフに制限がないことを確認する。																																																												

・上位クラス

種	教師の働きかけ	予想される生徒の反応・活動	種	留意点と評価																																						
導	1. 問題場面の提示 ビルの中を、1秒間に2mずつ動くエレベーターがある。今、地下6mから上がってきたエレベーターがちょうど地上0mの地点を通過し、その後地上10mまで上がる。その動く様子を表現してみよう。ただし、エレベーターが地上0mを通過した時から経過した時間をx(秒)、x秒後のエレベーターの高さをy(m)とする。		一斉	・動きを確認する教具を準備する。 ・プリントを配布する。																																						
入	2. 見通しをもたせる ・どんな方法があるだろうか。 ・式や表に表現してみよう	①式で表す。 ②表で表す。 ③グラフで表す。  ①式 $y = 2x$ ②表 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>x</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>y</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・xの変域は <math>-3 \leq x \leq 5</math></li> <li>・yの変域は <math>-6 \leq y \leq 10</math></li> <li>・xの値が負の場合も、yはxの2倍になっている。</li> <li>・xの値が負の場合も、xが1ずつ増えるとyは2ずつ増えている。</li> <li>・xの値が2倍、3倍...になると、yの値も2倍、3倍...になる。負の場合も同様に確認できる。</li> </ul>	x	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	y	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	10	個別	・式がこのようなになる根拠を確認する。 ・表の中で比例の特徴を確認する。  — 評価1 — 変域を負の数に拡張して表を完成させることができる。 (表現・処理) ・挙手、自己評価 ※表のつくり方や、 速さ×時間=距離の公式を確認する。																		
x	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5																																	
y	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	10																																	
展	3. 学習課題の提示 $y = 2x (-3 \leq x \leq 5)$ のグラフの書き方を学習しよう。																																									
	4. 検証 ・この対応表のxとyの組を座標として、座標平面上に点をとってみよう。	③グラフ ・点をとる  	個別	・この段階でいきなり定規をあてて直線にしてしまうと生徒も現れると思われるので、点を打つところまでとらせる。																																						
	・点と点の間はどうなっていると思いますか。 ・なぜそう思うのですか  ・もっと表をつけたして調べてみよう。整数xの真ん中の小数をとりyの値を求めよう。  ・ $0 \leq x \leq 1$ の範囲をもっと細かく調べよう。	・直線になる ・もっとたくさんの点がある ・点を結ばないと点と点の間でエレベーターが消えたことになるから。 ・エレベーターの動きは連続しているから、点と点の間にも無数の点があるから。  <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>x</td><td>-3</td><td>-2.5</td><td>-2</td><td>-1.5</td><td>-1</td><td>-0.5</td><td>0</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>-6</td><td>-5</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>...</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>x</td><td>0.1</td><td>0.2</td><td>0.3</td><td>0.4</td><td>0.5</td><td>0.6</td><td>0.7</td><td>0.8</td><td>0.9</td></tr> <tr><td>y</td><td>0.2</td><td>0.4</td><td>0.6</td><td>0.8</td><td>1</td><td>1.2</td><td>1.4</td><td>1.6</td><td>1.8</td></tr> </table> ・もっと細かく点をとる  	x	-3	-2.5	-2	-1.5	-1	-0.5	0	...	y	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	...	x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	y	0.2	0.4	0.6	0.8	1	1.2	1.4	1.6	1.8	一斉  個別  一斉	— 評価2 — グラフは点の集合であることを指摘し、比例のグラフを書くことができる。 (見方・考え方) ・机間指導、自己評価 ※式から表をつくる手順を確認する。
x	-3	-2.5	-2	-1.5	-1	-0.5	0	...																																		
y	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	...																																		
x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9																																	
y	0.2	0.4	0.6	0.8	1	1.2	1.4	1.6	1.8																																	
開	5. 適用問題の提示 ① $y = -2x$ ② $y = 2/3x$ ③ $y = -1/2x (-4 \leq x \leq 4)$ のグラフを書きなさい。	・変域が与えられているときと、与えられていないときの違いは何だろうか。 ・変域が与えられているときはグラフに制限がある。 ・変域が与えられていないときは無制限である。しかし、グラフ用紙には限りがあるからはみ出した部分は書かないことにする。		・グラフ方眼と表枠を印刷した適用問題のプリントを配布する。 ・基本的な問題や発展的な問題をさらに準備しておく。																																						
	6. まとめ ・比例 $y = ax$ をグラフに表すと、点のちらばりは <b>原点を通る直線</b> になる。 ・比例のグラフの書き方 1. 式から表をつくる 2. 座標平面上に点をとる 3. とった点を結ぶ		— 評価3 — 式から表をつかって、比例 $y = ax$ のグラフを書くことができる。 (表現・処理) ・適用問題への取り組み ※比例定数が分数のときはグラフ上で確認しやすい点がx座標、y座標ともに整数であることに気づかせる。 ※比例定数が負の数になる具体的な場面を考えさせる。																																							

1年英語科指導案より

段階	教師の働きかけ		予想される生徒の反応・活動	形態	評価と留意点
	JTE1	JTE2			
復習・導入	1 先生の英語を聞き取ってみよう。 (対話)	(対話)	・対話を聞き、内容理解のためのワークシートに取り組む。 eg) 本姓は(中国語を話すこと)ができる。また、(それを飲むこと)もできる。	グループ	○対話の内容は教科書の内容に合わせたものにする。  ○課題の板書
展開	今日の課題の提示  自分が得意なことを can を使って書いてみよう。				
	2 教科書を読んでみよう。 (2)単語練習の指示	(1)範読 ・机間指導	①全体でリピートする。 ②ペアで日→英、英→日を繰り返す。 ③全体でリピートする。 ペアでお互いにリピートする。	個別 ペア	○指名し、単語理解の確認をする。 ○指名し、音読状況を確認をする。
	(3)範読	・机間指導			
	(4)表現の確認	・机間指導	・表現の確認のためのワークシートに取り組む。 eg) can speak / can read / a little ・学習ノートに記入する。	個別	
	3 can を使って表現の練習をしてみよう。 (モデル文の提示)	・机間指導	・Let's communicate-1をやる。 eg) I can play tennis. And Keiko can swim well.	ペア	○ペアでお互いに can を使って話す。
	4 can を使って対話練習をしてみよう。 (モデル文の提示)	(モデル文の提示) ・机間指導	・対話練習を行う。 eg) A: I can play the piano a little. Can you? B: No. I can play the recorder.		— 評価-1 — can を使って友達と対話できたか。 (表現) ・観察  *机間指導の後、指名し確認する。 *モデルの再提示
整理	6 助動詞 can のポイントをノートに記入しよう。		・「～できる」= can ・Taro can play baseball well. ・can + 動詞 (原形 / s がつかない)	個別	
	7 自分の得意とすることを英語で書いてみよう。 ・書き方の指示	・机間指導	・プリントに記入する。	個別	— 評価-2 — can を正しく使って英文を書くことができたか。(表現) ・観察  *机間指導でスベリング等をチェックする。 *授業後回収し、個別指導する。
		eg) I like baseball very much. I can play it well. I am a good baseball player. Takashi can play it well too.			
本時の評価規準		評価基準			
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
自分が得意とすることについて can を正しく使って書くことができる。 ・観察		自分の得意なことに加えて友達のすることについても書くことができる。	can を正しく使って自分の得意なことについて書くことができる。	can を正しく使って文を書くことができない。	

1年数学科評価テスト

評価テスト 2章・文字と式 H15.9.5

組 番 氏名

96/100

1. 次の式を、①～⑤は×や÷の記号を使わない表示方で、⑥は×や÷の記号を使って表しなさい。(各4点)

① $x \times 5 \times y$ $= 5xy$	② $b \times (-1)$ $= -b$	③ $5x \div 3$ $= \frac{5x}{3}$
④ $b \times a \times a$ $= ab$	⑤ $(x-2) \times 4$ $= 4(x-2)$	⑥ $\frac{a-b}{7}$ $= (a-b) \div 7$

2. 次の問いに答えなさい。(各4点)

(1) 次の数量を文字を使った式で表しなさい。(×や÷をとった形でかくこと。)

① 1kmの重さがa gある針金の10mあたりの重さ $\frac{a}{10} g$	② 縦が12cm、横がycmの長方形の4分の1の面積 $3y \text{ cm}^2$
--	---

(2) 次の問いに答えなさい。(×や÷をとった形でかくこと。)

① 75枚の折り紙をx人の子供にy枚ずつ分けたら、何枚か残りました。残った折り紙の枚数は何枚ですか。 $75 - xy$ 枚	② 毎分xmの速さで12m進むには、何分間かかりますか。 $\frac{12}{x}$ 分間
---	---

3. a=5のとき、次の式の値を求めなさい。(各4点)

① $6x-2$ $= 6 \times 5 - 2$ $= 30 - 2$	② $-7+a$ $= -7+5$ $= -2$	③ $-(a)^2$ $= -(5)^2$ $= -25$
--	--------------------------------	-------------------------------------

評価テスト 4章 比例と反比例 H15.1.2

組 番 氏名

75/100

1. 次の問いに答えなさい。(各6点)

(1) yはxに比例し、x=-2のときy=4である。yをxの式で表しなさい。 $y = -2x$	(2) yはxに反比例し、x=4のときy=3である。 $y = \frac{12}{x}$	(3) $y = 4/x$ で、x=-2のときのyの値を求めなさい。 $y = -2$
---	--	--

2. 次の問いに答えなさい。(各5点)

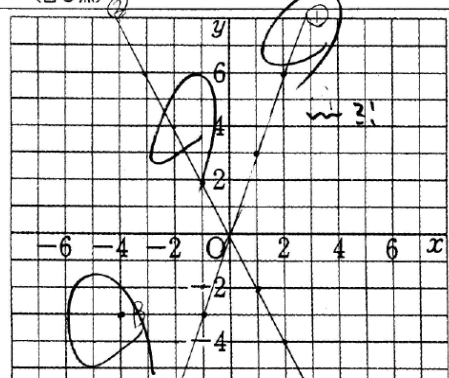
(1) yの変域は-2以上4未満を不等号を使って表しなさい。  
 $-2 \leq y < 4$

(2) 次の座標を右のグラフにかき入れなさい。  
A(3, 5) B(-4, -3)

(3)  $y = 6/x$ において、①下の表を完成させなさい。②①の表を使ってグラフをかきなさい。

(表)									
x	-6	-3	-2	-1	0	1	2	3	6
y	-1	-2	-3	-6	X	6	3	2	1

(4) 次の式のグラフをかきなさい。



-10



自己評価カード

評 価 カ ー ド

1 年 組 番 氏 名

第1章・正負の数			
月・日	評 価 項 目	評 価	検 印
4/17	0より小さい数	Ⓐ B C	神 和世
4/18	数直数	Ⓐ B C	神 和世
4/21	正の数負の数(量)を比べる	Ⓐ B C	神 和世
4/24	数の大小	A B C	神 和世
4/25	正の数負の数(量)を比べる	A B C	神 和世
4/28	"	Ⓐ B C	神 和世
5/2	"	Ⓐ B C	神 和世
5/15	11313な数の加法減法	Ⓐ B C	神 和世
5/16	加法の計算法則	Ⓐ B C	神 和世
5/19	3つ以上の数の加法減法	Ⓐ B C	神 和世
5/22	"	Ⓐ B C	神 和世

ENGLISH SELF-EVALUATION CARD

Grade-1 Clas \_\_\_\_\_ Number \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

Date	Homework	Activity-1	Activity-2	Test	Your Comment	Seal
4/22	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	/	1. 10-25 2. アルファベット	
4/24	A/B/C	Ⓐ/B/C	A/B/C	/	1. アルファベットテスト 2. 5ペナ	
5/1	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	A/B/C	/	1. アルファ(大,小) 2. トークリット	
5/6	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	/	1. 単語テスト 2. トの書き方	松尾
5/7	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	95/100	1. C/C 2. テスト	
5/8	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	/	1. C/C 2. 1-10 Speak	松尾
5/13	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	/	1. C/C 2. リーディング	
5/14	Ⓐ/B/C	Ⓐ/B/C	A/B/C	/	1. 問題作りと解答	

## 2. 今後の課題

今年度は、数学科と英語科で学力向上のための方策の基盤作りに取り組んできたが、来年度は次のことに重点を置いて研究を進めていきたい。

- (1) 習熟度クラス、T・Tでのより効果的な教材の開発。
- (2) 他教科への研究効果の波及。
- (3) 学区小中連携の強化。
- (4) 学力向上のための選択教科での教材の開発
- (5) 学力の客観的把握のための工夫

学力把握のための学校としての取組

- 1 教研式標準学力検査・NRT（年度初め）
- 2 県学力検査（2学期中旬・2年生のみ）
- 3 校内進路テスト（1, 2年は3学期。3年は1学期末と2学期中旬）

フロンティアスクールとしての研究成果の波及

- ・ 7月 3日：学区内小学校へ1年生の国語、社会、数学、理科、英語、美術の授業を公開し、情報交換会を実施。
- ・ 11月12日：青森市研究委託校公開発表会で市内中学校へ数学、英語の授業や研究の取り組みについて発表。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                               7～9学級                         10～12学級  
                               13～15学級                     16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                     T・Tによる指導  
                               その他
- 【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                               外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                               保健体育     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有             無

【取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 個に応じた指導のための1年生数学と全学年英語の習熟度に応じたクラス編成の実施。